

一足お先に、春菓子を

2007年も「新春」を迎えました。

でも「春」とは名ばかりで、まだまだ寒い寒い冬……。

春の足音を待ちきれない。

ならば、華やかな和菓子で

春の気分を愉しんでみませんか？

洋菓子のイメージが強い神戸ですが、

和菓子も美しく咲いています。

ちよっぴり早く、春めいて

一足お先に、春菓子を。





神戸風月堂 14頁
本高砂屋 16頁
常盤堂 18頁

神戸風月堂

柿原庄一さん

色合い、美しさ、季節感を
和菓子に織り込んで

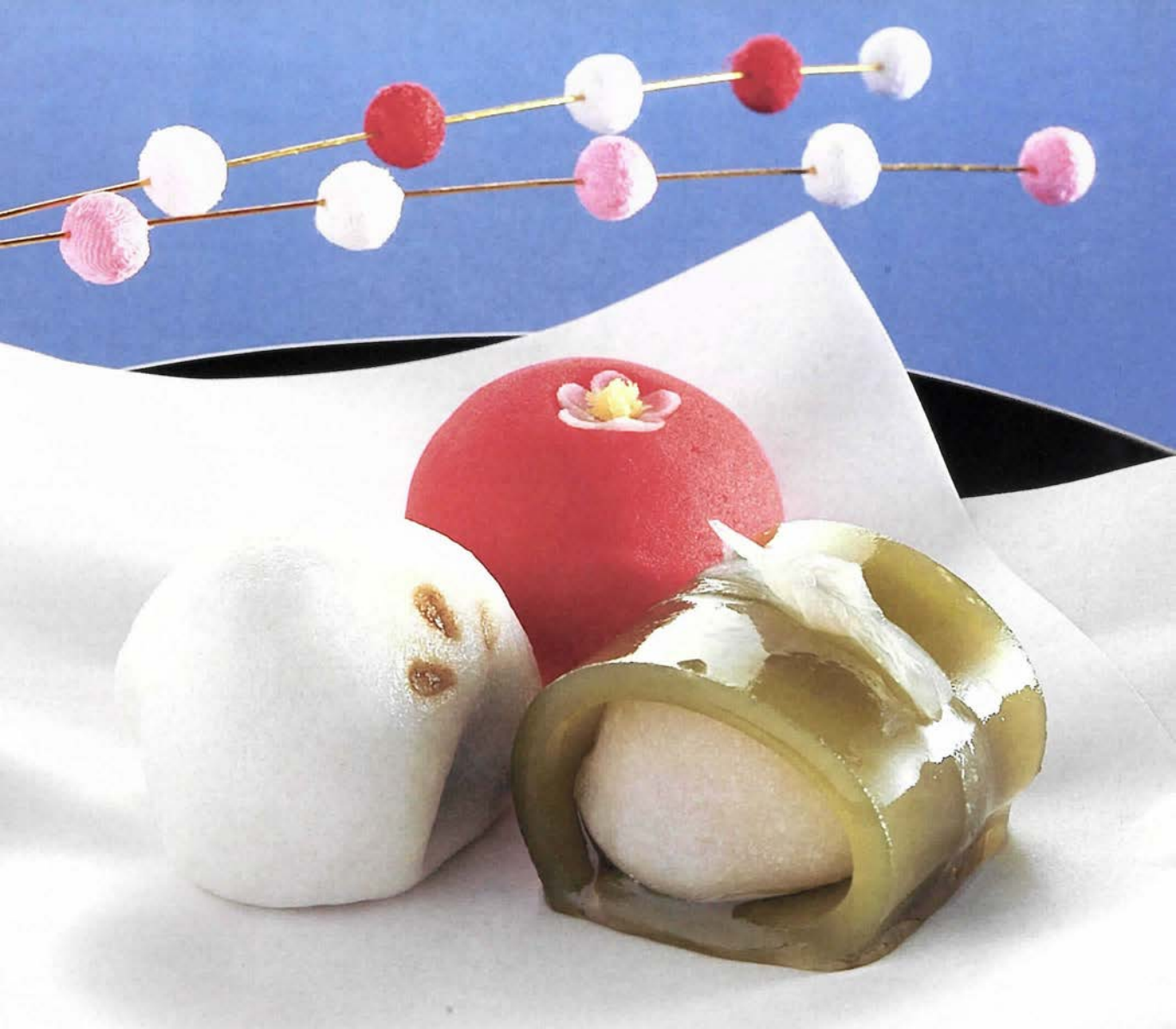
ゴーフルで知られる神戸風月堂は、100年以上にわたる元町3丁目本店を構える。村山りう氏による「源氏物語」の各巻の物語を和菓子で綴った「源氏の由香里」は、和菓子の粋を集結させた大作である。典麗、優雅、妖艶、清楚、枯淡、物語の数だけ、和菓子の表情を創り上げた。その数はゆうに2000を超える。「源氏の由香里」の創作に携わった柿原庄一さんは、和菓子づくりの伝統をしっかり受け継いでいる。山芋を蒸し

上げ、裏ごしをして、さらに砂糖を加えて丹念に練り上げる。新春にふさわしく、朱色、桜色の濃淡を巧みな指使いで色づけしていく。まるで手品を見ているかのよう。「色合い、美しさ、季節感を織り込むのが和菓子」。柿原さんのつくる和菓子は食べるのがもったいなく感じずにはいられない。

インフォメーション



神戸風月堂元町本店
神戸市中央区元町通3-3番-10号
078-321-5555
www.kobe-fugetsudo.co.jp



うるち米をこまかく挽いた上用粉を使用。皮がきめ細かな舌触りで、なめらかなこし餡と相性がよい「上生／松」〔左〕白火取り餡の練切り「上生／紅梅」〔中〕
求肥とは、餅粉や白玉粉などに砂糖や水飴などを加えて練り上げたもの。黄味餡を求肥で包み挽茶羊羹で巻いた「上生／竹」〔右〕

本高砂屋

井上正蔵さん



花鳥風月の風雅が 繊細なお菓子に

平成8年に神戸マイスターの認定を受けた井上さんは、和菓子ひとすじで50年。きんつばで有名な本高砂屋だが、和洋菓子も人気で、とりわけ井上さんが考案する季節ごとの工芸和菓子は、デザイン、技術、味ともに評価が高い。工芸和菓子は、花鳥風月に代表される日本の四季、風物詩を表現する。制作のために、花や木、鳥などをよく観察するという。そしてあの趣き深い菓子が生まれてくるのだ。制作する上で大切にしてい

いることは「おいしく作ること。表現も大事だけれど、良い素材を使つて、おいしいものを作ることがいちばん難しいし、それがもっとも大切なことです」と、静かに語ってくれた。

インフォメーション



本高砂屋元町本店
神戸市中央区元町通3丁目2-11
078-331-7367



梅の花をモチーフにした「梅園」〔左上〕、可憐な花を繊細に表現した「水仙」〔右上〕、そして春菜子の定番「花びら餅」〔下〕

和菓子がまるで 微笑んでいるかのよう



常盤堂

岩崎榮次さん

慶応4年（1868）、伊藤博文がしばしば訪れたという料亭「神戸常盤花壇」の一統として、常盤堂の商号で和菓子の製造をはじめた。4代目の岩崎榮次さんのお父様の代に、御影町に現在の店舗を開業。季節の移ろいを日本人の感性で創作した「御影雪花」は、三色の最



中に備中大納言を丹念にねりあげた餡を手焼きの種で包み込んだ。明治以来愛され続けてきた代表的な銘菓である。こなし、じょうよ、練切、きんとんなどの生菓子にも、餡は備中大納言・備中小白小豆を使用している。上品な香りや味わい深く、後味がさっぱりしている。京都の菓子型彫師に特注するという平板で、生菓子に文様を刻み込む昔ながらの製法も老舗ならではの。「季節にあった材料を厳選して、真心をこめてつくることを生業としています」。岩崎さんは優しい笑顔でそう話す。和菓子もまるで微笑んでいるかのよう。

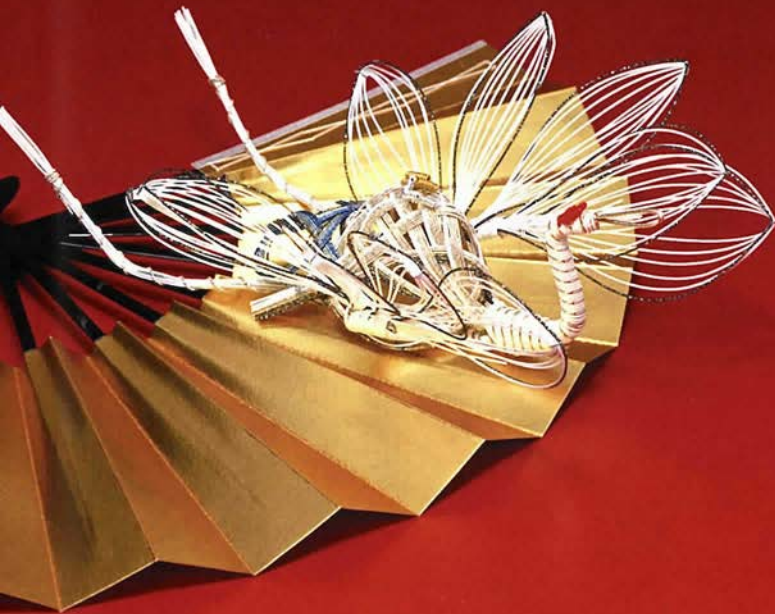
インフォメーション



常盤堂
神戸市東灘区御影中町4-8-22
078-851-4677



「延寿」〔中〕の紅と、「若松」〔右〕の緑の鮮やかなコントラストはまさに春の景色。「飛翔」〔左〕は可愛い丹頂鶴の形。



特集Ⅱ

新しい年がはじまった。

2007年の兵庫は、神戸は、どのように羽ばたくのだろうか。

知事対談では元氣ひょうごの発展と交流を

市長座談会では芸術文化のまち神戸の展望を

それぞれ語っていただいた。

新春対談・座談会

contents

21 P

新春知事対談

兵庫県知事 井戸敏三

神戸華僑総会名誉会長 林同春

26 P

新春市長座談会

神戸市長 矢田立郎

画家 石阪春生

神戸ビエンナーレ実行委員長 吉田泰巳

ヴァイオリニスト 北浦洋子

2007年度

(社)神戸青年会議所理事長 米田篤史

(順不同・敬称略)



「世界に開かれた

ひょうご」をめざして



林同春

(神戸華僑総会名誉会長)

VS

井戸敏三

(兵庫県知事)

司会：小泉美喜子（神戸っ子総編集長）

「元氣なひょうご」をめざし、多忙だった06年を終え、
「今年は、さらに“安心な兵庫”“安全な兵庫”そして“信頼の兵庫”を」と
話す井戸知事。

祖国を離れ神戸の地で、地域との共生を大切にしながら生きてこられ、
昨年、神戸新聞平和賞を受賞した林同春さん。

お二人に、「“世界に開かれたひょうご”をめざして」をテーマに
語り合っていた。



井戸敏三 兵庫県知事

2006年は兵庫から

「ありがとう」の気持ちを発信

―明けましておめでとうございます。さて、イベントが盛りだくさんだった昨年の兵庫県ですが、あらためて振り返りいかがですか。

井戸 そうですね、忙しい一年でした。「のじごく兵庫国体」と「のじごく兵庫大会」では、震災から復興した元気な兵庫を全国の皆さんに見ていただき、「ありがとう」の気持ちを発信することができました。

―林さんは、神戸新聞平和賞を受賞された年でしたね。おめでとうございます。

林 ありがとうございます。私たち華僑は、世界の各地で暮らしています。世界が平和でなければ生きていきません。私は日本で、戦争の痛みを身を持って体験しましたから、平和のためにはどんな努力も厭わないつもりで歩んできましたし、これからもその気持ちで歩み続けるつもりです。

井戸 国体のマスコットとして大変な人気者にな

った「はばタン」は、神戸朝鮮初中級学校の先生のデザインが採用されたんですよ。

林 国や民族には関係なく「いいものは、いい」と評価する多文化共生都市・兵庫の象徴のようですね。

井戸 また、昨年は、海外へも積極的に出かけた年でした。5月には、フランス・カン市で開催された第7回エメックス会議（世界閉鎖性海・域保全会議）開会式出席と併せて、オランダ、ベルギーを訪ねました。EUのバローゾ委員長にお会いしました。また、ニューヨークに行き、CERF（国連中央緊急対応基金）に兵庫県として一億円を拠出するとともに、国連関係者と面談して防災分野での国際協力について話し合いました。8月末には中国を訪問。南京で江蘇省との経済交流の協定を結びました。大連では京都・大阪・兵庫の3府県知事で「関西経済プロモーションセミナー」を開き、関西への投資促進をアピールしました。9月には、上海まで「ひょうご県民交流の船」に乗船しました。10月末から11月にかけて、西オーストラリア州との姉妹提携25周年式典をメインに、ベトナムとタイをまわりました。ベトナムではグエン・ミン・チュエツ大統領就任のお祝いと経済交流の促進を兼ねてお会いし、兵庫には人材養成の受け皿があることをお話ししました。タイ・チェンマイでの国際園芸博覧会にも立ち寄り、3府県で共同出展した庭園をオープンしました。



林同春 中央実業株式会社代表取締役
神戸華僑総会名誉会長
学校法人中華同文学校名誉理事長

1925年、中国・福建省生まれ。9歳の時、出稼ぎに来ていた父を訪ねて来日。戦時中の辛酸を耐え抜き、戦争直後の1946年神戸へ。三宮高架下の自由市からスタートした事業を着々と発展させ、1963年に中央実業株式会社を設立。神戸中華同文学校の運営、神戸と中国の交流のみならず、神戸の発展にも大きく貢献。近年では中国での植林事業など、活動は多岐にわたっている。

方々には、世界中の華僑の人たちから支援物資が届きましたが、それらを被災者同士で分け合っていたできました。神戸中華同文学校を避難所として開放してくださいました。いろいろな面で自然に、相互の助け合いが実際に行われていました。

林 兵庫県や神戸市は復興に際しても、民族・国籍の分け隔て

兵庫の良さを世界に知らせたい

— 今年には日中交流のイベントが神戸で開催されるそうですね。

林 はい。第9回世界華商大会が9月14日の前夜祭を皮切りに、神戸を中心に4日間開催されます。世界約100カ国で活躍する華商が約3000人集まります。このめったにない機会に、住んでいる私たちが誇りに思う兵庫をぜひ知ってもらいたいと思っています。そのため、兵庫県や神戸市にもご協力をお願いします。

井戸 私たちにとっても楽しみにしています。地元で盛り上げていこうと、12月に協力を立ち上げて、孫中山記念館や南京町、元町商店街、旧居留地などで歓迎、記念のイベントはできないかと、いろいろなアイデアを挙げているところです。林さんにご指導いただき、進めていきたいと思っています。

林 お互いに協力しながらすすめていきたいですね。神戸華僑総会、神戸中華総商会としても、ど

のような歓迎をすればいいかを話し合っています。

井戸 この大会を通して日中の経済交流、人的交流が密接になり、今後の協力関係がさらに友好的になることを中国政府、日本政府、もちろん兵庫県も大いに期待を持って見守っています。

兵庫県には約130カ国、10万人の外国人の方々が暮らしていらっしやいます。また、神戸は明治維新以来、世界に開かれた日本の窓口でした。そういった地域の特徴が発揮される大会になればいいと考えています。そして、兵庫への観光客誘致のきっかけにもなればうれしいですね。

震災経験で強まった、

民族・国籍に関係なく助け合う気持ち

— 国際都市とよばれる神戸ですが、多文化共生についてどのようにお考えですか。

井戸 多文化・多民族共生には震災の影響が大きかったと思います。民族、国籍を問わず、みんな助け合いました。たとえば、神戸在住の中国の

なく平等に扱ってくださいました。これは、この地域だからできることだと思います。

井戸 アメリカのハリケーン被災地などで略奪が横行し、その地で暮らす外国人が被害に遭っているケースを見るにつけ、そういうことがなかったのは本当に良かったと思っています。

林 それは、日本では立派な教育がなされているからだと思いますよ。震災直後、私は葺合に暮らす母親の所へ行く途中、小さなスーパーに立ち寄りました。あの混乱の最中、残り少ない商品の中から買う物を選び、お金を払うために長い列を作り並んでいるのを見て、日本人のすばらしさを感じましたね。

—多文化共生都市での教育については、どのよう
にお考えですか。

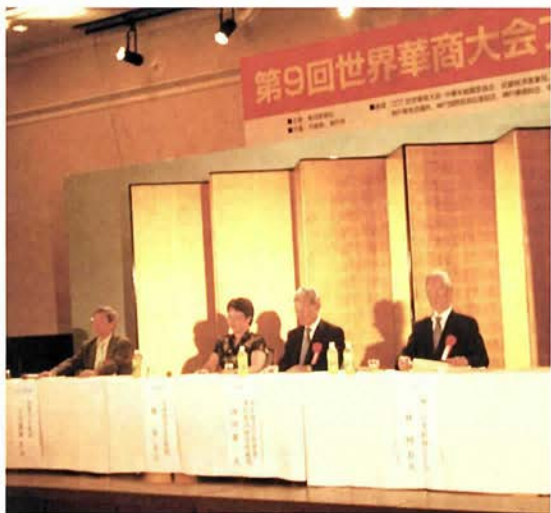
林 神戸、阪神間には朝鮮初級・中級学校、神戸ドイツ学院、カネディアン・アカデミーなど現在、14の外国人学校があります。1899年に開校以来100年以上の歴史を持つ「神戸中華同文学校」では今、約640人が学んでいます。日本人の子弟も交えて多言語教育を行い、様々な方面に人材を送り出してきました。私は「教育は非常に大切」だと考えています。日本各地に華人が暮らしていますが、神戸、阪神間は、教育面で一番進んでいると思います。

井戸 外国企業誘致に際して、交通など社会基盤が整備されていることはもとより、子弟の教育機関が整っているなど、日常生活を送るうえで、神戸、阪神間にはよい条件がそろっています。林さ

んが、国や文化の枠を越えた外国人学校協議会を立ち上げられたことで、この地域での多文化共生が大いに前進したと思っています。また、外国人を受け入れる立場としては、留学生が本国へ帰った後も兵庫県とのつながりを保てるような環境も作っていきたいと思っています。

林 そうですね。中国からもたくさん留学生が日本に来ています。彼らが本国へ帰った時、日本に対して好印象を持てれば、今後の日中関係にも好影響を与えてくれると思います。

井戸 一方で、最近は海外へ兵庫県の企業がどんどん進出し、たくさんの方の兵庫県人がその地でがんばっています。林さんとは逆の立場です。そこで、お互いに情報交換して協力し合ったり、地元のための活動をしたりできる兵庫県人会を作ってもら



昨年9月14日、兵庫県公館でおこなわれた世界華商大会のプレイベント。第九回世界華商大会は、今年9月15日に神戸で開催。

っています。シアトル、パリ、サンパウロ、ホンコン、上海、シンガポール、パース…、世界各地でかなり広がってきています。

2007年は生活の質を高めていく年！

—林さんの今年のお聞かせください。

林 まず、世界華商大会を成功させることです。そして、私たちは「この地域に住まわせていただいている」のですから、地元兵庫、神戸のみならずと共生して生きていかななくてはなりません。言葉にするだけなら簡単ですが、「何をすれば共生できるのか」ということに心を配り、実行していきたいと思っています。それと、井戸知事を始めとする日本の方々や華僑と一緒に運動を取り組んでいる、中国の黄河高原を縁にする運動を今年も引き続き行う予定です。成果がでるまでには少なくとも20年、30年かかります。私は今年、82歳になります、その成果を見届けるのが私の使命だと思っています。

—知事は今年はどうな兵庫をめざそうとお考えですか。

井戸 昨年に比べると、大きなイベントは少ない

年です。落ち着いて、生活の質を高めていくための基礎固めができる時期といえます。特に、「のじぎく兵庫大会」では、健常者と障害者の心が一つになった大会運営ができました。その成果を生かして、ユニバーサル社会づくりのさらなる推進に努めます。また、介護保険や障害者自立支援の制度改正が急であつたことから、必要な人が適切なサービスを受けられる体制を整えていく必要があるのではないかと考えています。そして、少子対策です。幸い、赤ちゃんの数はわずかですが増加の傾向にあります。この状態を維持するためには、結婚して子どもを生みやすい、地域ぐるみで子育てを支援する社会づくりが必要です。「元氣な兵庫」はもちろんですが、今年さらには「安心な兵庫」「安全な兵庫」そして「信頼の兵庫」をめざしてがんばりたいと思っています。最後に、

昨年、私がとても憂慮したのは、社会全体の風潮として、命が軽んじられているのではないかということ。命を大切にすること「は頭で理解するだけでは無理です。幼児期から自然の中で過ごし、自然に触れる機会を持つことが大切です。たとえば、自分で種をまいて作物を育てるといった体験をするといでしょうね。その中から、「自分も自然の中で生かされている存在なんだ」と身を持って知ることができると環境教育にもっと力を入れていくべきだと思います。そこから、自分の命を大切に生き抜く力、そして他人の命を大切に気持が生まれてくるのではないでしようか。

(兵庫県公館にて)



この秋、第1回神戸ビエンナーレを開催！

「文化や芸術に対する夢が具体化し、活気に満ちそうなる2007年。矢田市長を囲み、それぞれの立場からの新春の抱負をお話いただいた。

文化を形にして 積み重ねていく年

―新しい年、2007年への思いをお聞かせください。

矢田 震災から12年目を迎え、「新しい神戸」を目指す中で、文化が重要なテーマになっています。04年12月に「神戸文化創生都市宣言」を行いました。これを具体的に市民のみなさんとともに取り組んでいく時期にきています。昨年12月にオープンした「神戸文学館」は「いいものがあった」と喜んでいただいています。今年10月6日から「神戸ビエンナーレ」を開催する予定です。さらに、神戸ファッション美術館内に「神戸ゆかりの美術館」を作ろうという計画をすすめています。こういった積み重ねが、新しい神戸の街の特徴になっていくものだと思います。



矢田立郎神戸市長

◎出席者（順不同敬称略）

矢田 立郎（神戸市長）

石阪 春生（洋画家）

吉田 泰巳（神戸ビエンナーレ実行委員長）

北浦 洋子（ヴァイオリニスト）

米田 篤史（2007年度（社）神戸青年会議所理事長）



米田篤史さん



北浦洋子さん



吉田泰巳さん



石阪春生さん

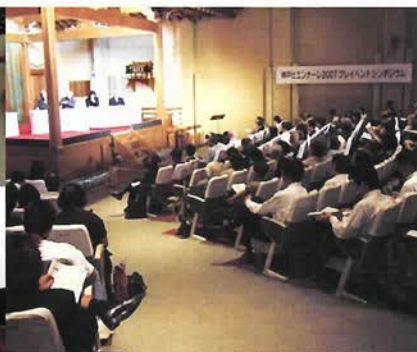
石阪 郷土の画家や作家の作品には、地元の間は郷愁を感じ、「見たい」という気持ちを持って、いるものです。ところが今まで、その機会を与えてくれる場所がほとんどありませんでした。ですから、「神戸文学館」は以前からの懸案が形になって実現したものです。「神戸ゆかりの美術館」もそうです。これについては、どこに作るかというので矢田市長には、あれこれ考え、足を運び検討していただきました。文化、芸術というものは、施設を造っていただければ、今後100年もの長期スパンで成熟させていくことができるものだと思います。

考えています。影響し合いながら新しいものを生み出そうという発想です。市長にも「みんなやれ！」と言われてます(笑)。三宮や元町の商店街、またアートに関係する人たちができるだけ多く巻き込んでやろうと思っています。今年は盛り上げていかなくては！音楽も欠かせないですよ。

吉田 「神戸ビエンナーレ」は、メリケンパークを主会場にコンサナを使って開催します。世界を回ってきたコンサナには物語りがあります。ビエンナーレは、イタリアのベネチアが発祥の2年に1回開催される現代アートの祭典ですが、開放的な神戸で開催するので、基礎は現代アートに置きながら、花や音楽、舞台などいろいろなものが「交じり合い、出会う」ことをテーマにしたらいんじゃないかと

北浦 私は05年、06年は中国へ行かせていただきました。音楽を通しての国際交流に少しでもお役に立てたのではないかと思います。子どもたちの育成にもがんばっています。西宮市少年少女合奏団の団長をやっていますので、昨年は神戸市少年少女合奏団と合同でドイツの有名なチェリストを招いて演奏をしていただき共演しました。今年は3月末から4月にかけて子どもたちを連れてドイツに行き交流をしようと考えています。

吉田 ビエンナーレ開催中は平日の夜だけ、ホテルオークラ神戸と神戸メリケンパークオリエンタルホテルのチャペルをお借りできることになっています。小さなコンサートを開こうと思



「神戸エンナーレ2007」を語るプレイベント（湊川神社神能殿にて）

っています。北浦さんにも協力いただけるとうれしいです。

北浦 チャペルの内は、音がよく響くので、演奏にも適すると思います。お客さんと一緒にできるような演奏会をやってみていすね。

―若手の代表として、いかがですか。

米田 今年の神戸JCは4つの「らしさ」をテーマに一年間活動を行って参ります。まず、「人間らしさ」はデジタル化が進む中、薄れてきている人と人の心のつながりを取り戻す事が出来るような事業を計画中です。次に「日本らしさ」とは、私たちが祖父から教わったような日本の心が忘れられています。特に礼儀、礼節、目上を敬う心を継承するための事業を行う予定です。そ



2006年12月4日にオープンした神戸文学館（灘区）

して、最もむずかしいのが「神戸らしさ」。「神戸らしき創造委員会」を立ち上げ、ソフト、ハード両面から神戸を見つめ直し、提言すべきことは何か？悩みに悩んでいるところです。最後に、「神戸JCらしさ」 来年50周年を迎える神戸JCとして、50周年の前年に出来る事、やらなければならぬ事を考えていこうと思っています

神戸のモダンイズムの追求を

矢田 確かに「神戸らしさ」はみんなが口にするけれど、「ところで何？」というところですね。神戸には120カ国、4万4千人が住んでいらっしやいます。この「インターナショナルさ」

は他の都市にはないということ
を再認識することがきつかけに
なるのでは？あつて当たり前と
思わずに、そこから神戸の良さ
を引き出していくということです。
石阪 関西の他都市と比べてみ
たら「らしさ」はよく分かりま
すよ。絵画でもそうですが、大



右より石坂さん・北浦さん・矢田神戸市長・吉田さん・米田さん

阪の絵、京都の絵、神戸の絵に
はそれぞれ個性があります。こ
れが風土というもの。私の絵な
んかは、イヤでも神戸から脱出
できませんからね。これが私と
神戸の関わり、私の宿命。これ
が風土です。「神戸潰け」の人
間が「神戸らしさ」を語るのは
むずかしいはず。自分が潰かつ
てしまってるんですから。

吉田 それはいけばなの世界で
も同じで、流派を超えた違いが
ありますね。

北浦 例えば、ヨーロッパで勉
強した貴志康一さんの音楽は、
最初はドビュッシー風であるけ
れども、途中で関西風になり、
最後にまたヨーロッパ風に戻る
ようなことがあります。風土か
らは離れられないのでしょうか。

吉田 私は神戸で生まれてから転々
として尼崎に住み、神戸で仕事
をしていますし、生け花の基本
は京都です。外から見えます
から、そういう意味では神戸ら
しさが良く分かるかもしれない。
大阪の富豪が神戸・阪神間を造
ったという経緯があるから、こ
の2都市は似通っています。京
都は全然違います。文化が交

じり合い、再生するということ
ろに日本の文化の原点があるとし
たら、神戸は一番「日本らし
い」かもしれないですよ。

石阪 神戸は質が高い洗練され
た街ですね。平たく言えば、オ
シャレかな。絵描きでいえば、
金山平三・小磯良平両画伯などは、
神戸にしかない洗練された絵を
描いています。それだけに、画
壇ではちよつと進んでいたわけで、
今見たら、すばらしいモダニズ
ムです。その精神構造は、私の
尊敬するところです。

吉田 他所で仕事をしていると
思うのですが、神戸はイヤなも
んはイヤ、好きなもんは好きと
言える街ですよ。

北浦 ホツとできる街ですね。
夜景がきれいで、方角が分かり
やすいし、旅行から帰ってきた
ときなど、ふだんは当たり前前
はずの山や海を見たら癒されます。
石阪 六甲山系が守っている街。
大阪平野から見たら、山の麓は
憧れの地だったんでしょいうね。

一説によると、神戸は「死にた
なる街」ナンバーワンらしいで
すよ（笑）。

吉田 私も死ぬ前には神戸に帰

つて来ようと思っっていますよ（笑）。

人と人が出会い交流できる街に

—これからの神戸の街づくりに
ついての抱負をお聞かせください。

矢田 神戸が活気づくためには、
「交流」がキーワードだと思いま
す。その意味でもビエンナーレ
は非常に意味があります。

石阪 美術と文化に関しては、
アーチストの今までの神戸への

思いが形になり、叶いつつあり
ます。これが、次の文化ゾーン
の誕生に繋がるものだと思います。
さて、また新しい文句や悩みを
探さなあかん！ 人間、満足し
てしまつたら終わり。悩まなく
なつた時は、死ぬ時ですから（笑）。

北浦 今年も子どもたちの育て
ていき、神戸から世界へ送り出
したいと思っています。そして、
「どうしても神戸で開きたい」と
思っていた大きなリサイタルが
秋に実現することになっています。
今から楽しみにしています。

米田 神戸が人の集まる賑わい
のある街であつてほしいと思っ
ています。ハード面では、山が
あり海が非常に恵まれてい

ますが、ソフト面では、優しさ
に少し欠けているのではないで
しょうか。例えば、地図を見な
がら歩いている観光客の人がい
れば、自然に声をかけるような
優しさです。神戸へ来て優しさ
に触れたら、きつとまた神戸を
訪れてみたいと思つていただけ
るに違いありません。そのため
に神戸JICとしても「らしさ」
を追求して、何かきつかけを作
つていきたいです。

吉田 居心地の良いビエンナー
レを演出しようという思いで頭
がいっぱい입니다。全精力を傾け
て成功させたいと思っています。
せっかくアートに深い理解を持
つておられる市長さんを迎えて
いるのですから、この機会にア
ートの世界を良い方向に持つて
いければと思っています。

矢田 「神戸2010ビジョン」
には、「挨拶をしよう」というよ
うな小さな提言も含まれています。
重要なのは一つひとつの積み重ね。
これが、豊かな暮らしを実現す
るものだと思います。

神戸市立相楽園会館にて

思い出に残る会議の舞台 神戸コンベンションセンター

●バラエティに富んだ会場

国際会議場

692名から10名までご利用可能な21の会議室

国際展示場

総展示面積13,600㎡

2号館1階コンベンションホールはシアター使用で
4,000名収容可能

●経験豊かなスタッフが運営サポート

●リーズナブルな価格も魅力



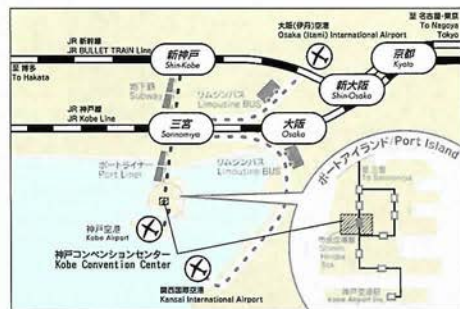
メインホール



アクセス

access

神戸空港から8分 空港から会場までの利便性は日本一
東京から新幹線で約2時間47分 飛行機で約1時間



神戸国際会議場・神戸国際展示場

(財)神戸国際観光コンベンション協会 〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL.078 (302) 5200 FAX.078 (302) 6485

会議場 URL <http://www.kobe-kaigi.jp/> E-mail Kobe.cck.exb.1@kcva.or.jp

展示場 URL <http://www.kobe-tenji.jp/> E-mail Kobe.cck.exb.2@kcva.or.jp